

主催者挨拶

大西 隆
日本学術会議会長

持続可能社会のための科学と技術に関する国際会議 2014 を開催したところ、多数の皆様にご参加頂き、主催者としてお礼申し上げます。

本年は、地球持続性に向けた学術の統合と人材育成—**Transdisciplinarity for Global Sustainability: Strategies for Research and Capacity Building**）と題して開催いたします。また、国連大学、同サステイナビリティ高等研究所の皆様とともに開催できることに改めて感謝申し上げます。

日本学術会議は、人文・社会科学、生命科学、理学・工学の分野を包摂する日本の科学者コミュニティーの代表機関として活動しております。「持続可能な社会の構築」については、学術研究の立場から幅広く継続的に検討を重ねてきました。ICSU や IAP/IAC といった国際学術団体において、地球サミット（持続可能な開発に関する世界首脳会議）以降、持続可能性に関する各種プログラムを立ち上げ、持続可能な地球社会の構築に貢献してきたという世界的な潮流の中、日本学術会議でも世界の動きに呼応する形で同様の貢献を果たしてきたものと考えています。

具体的には、1992年にブラジルのリオデジャネイロにおいて開催された国連環境開発会議（地球サミット）以降、地球環境保護の動きが世界的に大きな潮流となり、ICSU（国際科学会議）をはじめとする国際学術団体や世界各国の国家科学アカデミーは、各種プログラムを立ち上げ、地球環境問題についてその原因の究明や将来の予測、またそれに対処し得る地球環境政策の推進に貢献してきました。各国際学術団体がこれまでに立ち上げた持続可能な社会の構築に向けた各種の具体的なプログラムは、多くの科学的成果が得られている一方

で、その成果が持続可能な地球環境の構築に十分貢献できてこなかったとの反省も生まれました。この反省を踏まえ、2012年6月に開催された「リオ+20」（国連持続可能な開発会議）において、学術コミュニティーが中心となって地球環境についての国際的・統合的・協働的な課題解決型研究を推進する「フューチャー・アース・イニシアティブ」が発表され、現在、ICSUやISSCといった学術コミュニティーを巻き込んだ大きなうねりとなっています。日本学術会議もフューチャーアースに積極的に取り組むこととしており、本日もご講演を頂く人間文化研究機構総合地球環境学研究所の安成哲三所長、国際科学委員会のメンバーに就任されています。また、新たに発足する恒久国際事務局に日本学術会議を中心とするコンソーシアムが、他の4カ国の機関とともに選ばれたとの連絡を受けたところです。したがって、これからの持続可能な開発に関して、科学者間をはじめ、広くジャンルを超えた関係者間でこの問題に取り組むフューチャーアースの研究活動の推進役の一翼を私どもも果たすことになりました。

今回の「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」は、国際連合大学との共催により、国連大学の武内和彦上級副学長に組織委員長として企画をまとめていただきました。講演者としては、海外より韓国ESD委員会のEun-Kyung Park委員長、デリー大学のR.B. Singh教授、フューチャーアース暫定事務局のFrans Berkhout局長（オンライン）、国内より政策研究大学院大学の杉原薫特別教授、北海道教育大学の氷見山幸夫教授、人間文化研究機構総合地球環境学研究所の安成哲三所長が登壇されます。

この会議が、ご参会の皆様にとって実り多いものとなることを心から希望いたします。最後になりましたが、ご共催を賜りました国連大学に対して深い感謝の意を表して、日本学術会議を代表してのご挨拶といたします。